
めだかボックス～異常で最強でもあり最凶の過負荷～

?ユッキーは魔王様?

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

めだかボックス〜異常で最強でもあり最凶の過負荷〜

【Nコード】

N0926Y

【作者名】

? ユツキーは魔王様?

【あらすじ】

俺の名は一条 レンいつも通りな生活してたら妹に殺された
しかも理不尽な事に理由が「私お兄ちゃんのが好きだったのに
ほかの女に渡さない」というなんて理不尽・・・そんな時に自
称神様と自称創造神あどetc・・・頭が逝かれてる奴等に転生
させるといわれて・・・

俺の人生はどうなるの??

ハチャメチャな生活になっちゃおう!!

不定期更新につきご了承願いたいです

名前が変わります

コワス妹とコワサレル俺（前書き）

初めまして

これから連載をはじめます

気軽にユツキーと呼んでください

感想などをもらえるとうれしいです

時々キャラ崩壊します

基本最強です

コウス妹とコウサレル俺

どうも俺はこの物語の主人公だそうだ
一条 レンだ

俺は生まれた時から異常だった
そんな俺は人から親から嫌われていた

そんな俺にも彼女はいた
普通に接してくれるのは2人目だ
1人眼は俺の妹だ
名前は茜

これまた美形でカワイイ
そんな普通な日に変化は起きた
俺が妹に彼女を紹介した次の日の夜に事件は起きた・・・

ピンポン

「誰？」

「私だよお兄ちゃん！！（ニコッ）」

今日も満面の笑みを抱えて俺のマンションに来る茜

「何しに来たんだ？」

そんな会話

エヘへと笑いながら答える茜

「一緒にご飯食べたいから材料とかいろいろ買って来ちゃた」

テヘツという可愛い効果音が付きそうな笑顔

そうやって俺ん家に入り込み

料理を作り

食べて寝る時間

「俺はもう寝るけど茜はどうする?」

「そうだね・・・じゃあいつしよに寝よ?」

コテンッと顔を斜めにする妹に不覚にも可愛いとか思ってしまう自分

「いいケド別に」

じゃあお休みと言って俺は深い眠りについた

そう永遠に目覚めない眠りに

＼茜Side＼

ゴメンネお兄ちゃん

大好きなんだよ他の誰にも渡したくない位に・・・

だから私は壊すんだ

あの女のもとへ行ってしまうならこの手で・・・

コワスンダ

コワシテコワシテ

気づいたら

そこにはお兄ちゃんの返り血を全身に浴びた少女と

原形をとどめていない

お兄ちゃんだったモノがあった

＼Sideout＼

神はなんて理不尽なんだろうね

そう誰かが呟いた気がした

コワス妹とコワサレル俺（後書き）

書けました

まだ転生してません

コワシカタ

包丁で心臓を刺してそのあとは何回もぐちゃぐちゃに
そしてグロッキーな姿に変貌したわけですね

次回

殺されたレンは自称神などに会う

次回も見てね！！

感想くれたらうれしいです

目の前に・・・・・・・・(前書き)

昨日更新できなかったorz

目の前に・・・・・・・・

「うつ・・・・・・・・ん」

レン歯目を覚ました・・・・・・・・

が

「ここどこだ〜〜〜〜」

意味の分からない真っ白な江界・・・・と言っより空間にいたのだっ
た・・・・

『おっ目を覚ましたな』

頭可笑いんじゃないん？？

てか病院行ったほうがええって……

『頭はおかしくないし病院も行かない』

ん？？

俺言葉に出してた？

『だって俺（儂）最高神（創造神）じゃん』

「てことは心を読んだと？」

『まっそんなとこ』

「はあで俺死んでんのに何でここにいの?」

『おおわかっておったか』

「まあなで俺はどうなんの?」

『転生してもらっぞ』

「.....ハア

「??」

一条　　レ

妹に殺された後も

災難が待ってるようです・・・

目の前に・・・・・・・・(後書き)

終わりました

今度もがんばります

チートな能力？？

「ハアゝで俺はどこの世界に転生するんだ？」

『めだかボックスだ』

「めだかか・・・あれでは名瀬天歌が一番好きだなゝまっいいよ」

『で・・・異常と過負荷^{アフノーマル マイナス}あげるよ』

「・・・ハッ？」

『えつとこれ』パーフェクトコピー『完全真似』これはみた異常も過負荷が使えるようになる。まあ威力は本人よりハンパないけどね』

『ちよいまてい………それってさやばいよ』スカーデット『致死武器』とか使ったらハンパなくない?』

『ウムまあそうじゃな』

『まっいいでほかには?』

『次はこれ』^{メイク・ザ・スキル}『製造能力』これは異常も過負荷も自分が欲しいと思っ
たスキルが作れる異常だ』

「はあまっいい」

『ほいっ目全身に』幻想殺し（イマジンブレイカー）『これはわ
かるよな』

「いやわかるけども……………ほかの世界の能力だぞ……………
まあいいよ」

『もうめんどくさいわい』とある化学の超電磁砲^{レールガン}』と』とある魔術
インディックスの禁書目録』の能力すべてと『NARUTO』の術とか輪廻眼・白
眼・万華鏡写輪眼をやる』

.....

「俺チート過ぎるだろう.....」

『あと身体能力とか知能すごいからな.....』

「それは最強なのか？それとも低」

『最強に決まっておろう？』

「ですよ~~~~~」

『名前変わるから』

「俺の名前は？」

『闇月^{やみつき} 鬼瑠兔箱庭^{キルト}に近い家に行く親はいないから』

「なんかスッゲーやばい名前な気がする……まっいいけどさ」

『じゃあな……』

俺は光に包まれ消えていった・・・

チートな能力?? (後書き)

かけた

うれC

W
W

プロフィール

主人公の名前など・・・

名前：闇月 鬼瑠兔（転生前 一条 レン）

性別：男

年齢：めだか達と同じ

身長：164cm？

体重：54kg

容姿：髪型肩位まであり縛っている（テニプリの仁王みたいに）

髪色は藍色で（テニプリの幸村の色）

きれいな顔立ちでイケメン

目の色は紫

詳細：生前は親などにも見捨てられ理解などしてくれる人は妹と彼

女しかない

理由は異常だったから（記憶能力がハンパなかった）

妹に殺され最高神と創造神に無理矢理転生させられた可哀想な人

異常：めだかボックスの登場人物の異常アフノーマル

『完全真似』パーフェクトコピーこれはみた異常も過負荷が使えるようになる。

まあ威力は本人よりハンパない

『製造能力』メイク・ザ・スキルこれは異常も過負荷も自分が欲しいと思ったスキルが作れる

過負荷：めだかボックスの登場人物の過負荷マイナス

能力：【とある化学の超電磁砲】レールガンと【とある魔術の禁書目録】インディックスの能力すべてと【NARUTO】の術とか輪廻眼・白眼・万華鏡写輪眼

『幻想殺し（イマジンプレイカー）』

過負荷マイナスと異常アフノーマルは増える予定

チャクラなどは精神力

ちなみに精神力は・・・∞

プロフ（後書き）

連続投稿

まあ意味ないかもシンナイケド・・・

手紙（前書き）

結構ほったらかしにしていモノ
すみません

なんせテスト期間中ですから
書くのが大変なんです
次回から気を付けるので
では本文へどうぞ

手紙

ドーモ

妹に殺され

←

創造神 & a m p ・最高神に（ムリヤリ）転生させられ

今俺の家にいるであろう状況

俺はどうしたらいい？

とりあえず能力の確認をする前に

テーブルの上に手紙があったので読んでみる

「ええつと

『鬼瑠兎へ

この手紙を読んでいるということは無事にお前の家についたということだろう

家の説明するぞここはお前の家だ

一軒家で一階に客室・リビング・トイレ・洗濯機・部屋（4部屋）・キッチンがある

二階は風呂・トイレ・お前の部屋・部屋（3部屋）ある
地下には訓練場がある

その家から箱庭学園まで5分だ

なるべく近くしたんだぞ

まあこの手紙を読んだら能力確認をしてくれ
お前の【コチラの記憶】は俺の手元にはない

なおで地道に集めてくれ

最後に

お前が【この物語】めだかボックスの【主人公】だ
だから基本何してもおkだ

お前がめだか側についてもフラスコ側についても構わないし
マイナス過負荷側についてもかまわない

健闘を祈る

d y 最高神 & a m p ・ 創造神

『部下より』

[illegible]

「なんだこれ……」

つまり最高神たちは部下に押し付けたのかよこの手紙は

まったく

家
も
で
け
え
し

「ハアこの先が思いやられそうだ」

と切におもう

5 時間後

全部の技と能力を確認した俺は

眠りについた

展開早くない？という疑問は

思わないでくれ

技とか試したらネタばれするだろ？って

言われたんだ

ということで俺はもう寝る

明日から

俺の箱庭での学園生活が始まる

初登校・・・・・・・・・・初対面（前書き）

めだかでてこないよ

初登校・・・・・・・・・・初対面

P i i i i i i i

目覚ましの音が部屋になり響く

現在6時

目覚ましを止めるべく眠たそうにしながらも腕を伸ばす鬼瑠兎

そう彼は低体温なうえに朝がこの上なく・・・

弱い

「ハアアア眠い」

そういいながらも洗面台まで壱岐ハブラシと顔を洗う

洗いを終わったら朝食を作りに行く

それも食べをわえ

箱庭学園の制服に身を包む

ここが前の世界だったら完全なるコスプレだ

そんなことを気にするときりがない

なので仕方なく家を出る鬼瑠兎

昨日のふざけた手紙のところに地図もあったためそれを見ながら向かう

〈5分後〉

「ここが箱庭学園」

目の前にあるのは紛れもない

そして今日が入るクラスを見に逝く

「ん？俺は・・・」

「1組か」

まあ徒然だろうな

誰にも見せてないし

おっ善吉& a m p ; 不知火はっけーん

とりあえず話しかける鬼瑠兎

「お前らも1組か？」

そう聞いた

「ああそうだぜ」

「うんそうだよアッヒヤヒヤ」

独特の笑い方

「俺は鬼瑠兎・・・闇月やみつき 鬼瑠兎キルトよろしく」

「俺は人吉 善吉よろしく」

「アヒヤヒヤアタシは不知火 半袖だよっよろしく」

「うんこれからナ」

「こうして善吉達の初対面は終わった・・・」

なんかデジャビュ

「ああ、おいしかった」

僕は今固まっています

そんな状況に陥るのは数十分前

数十分前

「フアアアつかれたなあ」

と俺が嘆いて帰っているときに……

ヒュユユユ……

ペチャ

ん？

ナ・ゼ・コ・コ・コ・ニ

安心院なじみが居るんだ？？？？
・
・
・

し・か・も

何故？

・
・
・
・
・
・
・
空から降って来る？？

トヨコ

「ねえねえ」

ん??

「だからそこにいる君!!」

「ん?俺か??」

「そう君だよ僕今おなか減ってるんだだから何かくれないかな?」

ハア??

.....

何を言ってるんだこいつ??

「なんで俺なんですか？

安心院なじみサン」

ここで少し驚かせてみよう

「ッ！！！？！？（なんで知っているのかな？）」

「あら動揺したんだ珍しいね（原作の君はしないと思つよ）」

「まあいいやだったらいいでしょ？きみの名前も教えてよ」

「俺か？俺は闇月 鬼瑠兎だ」

「そつなんだじゃあ頂戴」

「はあ仕方ない」

く終了く

というわけだ

「たべたらとつとと帰ってくれ」

「もお 仕方ないね じゃあまたね」

「ああ そうだな」

というところでデジャビュな日でした・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0926y/>

めだかボックス～異常で最強でもあり最凶の過負荷～

2011年12月1日20時52分発行